

# 三陸新報

## マグロ船を探検

目黒区 駒場小 5年生が遠洋漁業を学ぶ

東京都目黒区立駒場小学校（北島陽彦校長）の5年生75人が、気仙沼市を訪問。4日から6日まで、マグロ船を見学したほか、大島小学校の児童と交流を深めた。

「自然宿泊体験教室」の一環で、2013年から毎年、目黒区と交流のある気仙沼市を訪問している。

漁船見学では、港町岸壁に停泊中の遠洋はえ縄漁船・第123勝栄丸（本間元章船長・439ト）に乗り、遠洋漁業の仕事を学んだ。一昨年に駒場小で魚に関する出張授業を行った「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」（臼井壮太郎代表）が講師を務め、児童らは甲板で、臼井代表か

らマグロの種類や漁獲している場所などの説明を受けた後、8グループに分かれて船内

を探検した。船員室や機関室、マインス60度になるマグロの凍結室などを見学。船内での生活を聞き、漁に使われる大型の機械などを見て「面白い」などと興味深そうに見入っていた。鈴木結翔君（10）は「マグロの漁獲方法や、漁に使う機械が見られて良い勉強になった。魚への興味が湧いた。

たので、気仙沼でおいしい魚料理を食べたい」と話した。



マグロ漁を学ぶ駒場小学校の児童たち